

第2回 すこやか大阪21(第3次)推進会議 会議要旨

1 日時

令和8年2月4日(水) 10時00分～11時40分

2 会場

大阪市保健所(あべのメディックス)12階 研修室1・2

※「Microsoft Teams」を利用したWEB会議と併用

3 出席者

(1)委員

【会場参加】上田委員、繪本委員(座長)、尾西委員、喜多村委員、北吉委員、田島委員
豊川委員、中野委員、福島委員、本多委員、松田委員、山本委員(五十音順)

【WEB参加】杉浦委員、立岩委員、福岡委員(五十音順)

(2)事務局

【健康局】局長、首席医務監、健康推進部長、保健医療企画室長、保健指導担当部長、健康施策課長、
健康づくり課長、健康づくり推進担当課長、受動喫煙防止対策担当課長、
生活習慣病担当医務主幹、保健主幹、精神保健医療担当課長、保健所管理課長、
保健所保健医療対策課長、保健所感染症対策課長

【西区役所】保健福祉課保健担当課長

【城東区役所】保健福祉課保健副主幹

【経済戦略局】スポーツ課長

【福祉局】国保保険事業担当課長、介護予防推進担当課長、自立支援課長、生活保護調査担当課長、
障がい福祉課長

【こども青少年局】母子保健担当課長

【教育委員会事務局】保健体育担当課長

【大阪府】健康医療部健康推進室健康づくり課参事

4 報道機関取材者及び傍聴者

報道機関:無 傍聴者:5名

5 議題

(1) すこやか大阪21(第3次)現状値・目標値の訂正について

(2) すこやか大阪21(第3次)計画前期アクションプラン、大阪市歯と口腔の健康づくりアクションプランの進捗
管理について

(3) 地域・職域連携推進について

6 要旨

(1) すこやか大阪21(第3次)現状値・目標値の訂正について

事務局より資料1に沿って説明。

(主な意見・質疑等)

なし

(2) すこやか大阪21(第3次)計画前期アクションプラン、大阪市歯と口腔の健康づくりアクションプランの進捗管理について

事務局より資料2、3に沿って説明。

(主な意見・質疑等)

・すこやかママのチェック事業における区の保健師フォロー率が90.6%と素晴らしいものである。具体的なノウハウやこれを拡大展開する計画などを教えていただきたい。

→区の保健師による電話連絡や訪問により、検診受診の重要性や生活習慣病の予防について丁寧に説明してくれているので、この取組については今後も続けていきたい。この事業の拡大は難しいが、本事業の自宅での検診受検率をどのように拡大していくかが課題であると感じている。

・循環器疾患分野の特定保健指導の実施率について、実施率が下がっている原因を把握していたら教えてほしい

→今回数値が大きく下がった原因としては、集団特定健診の受託業者が変更になったというところが一番大きな要素としてある。令和4年度は、健診後、受診者を引き止めて保健指導に繋げていただくノウハウやスキルを持っている事業者が実施していたが、令和5年度、6年度は事業者が異なったため、実績として影響が出たと考えている。これを踏まえ、令和7年度については集団健診以外でも強化を図り、直近の数値は令和4年度の同時期実績を上回る実績となっている。

・アクションプランのA評価とB評価は概ねどのような状況として考えたらよいか。

→取組の目標値がありそれを達成している場合や、目標値の設定がなくても数値が順調に増加している場合はA評価、目標値の達成はできていないがその目標への取組が順調に進んでいる場合等はB評価としている。経年的にみるという視点を持って評価している。

⇒今年度はC評価がなかったが、大きな課題等は現状ではないということか。

→その通りです。

・歯周病検診の受診率向上に向けて、今後も大阪市と共同で取組を進めていきたいと考えている。

・大規模災害の時の歯科医療救護の提供について、区の担当者は具体的な話を各区歯科医師会としっかりと行っていただきたい。

・休養・睡眠のアクションが他と比べて少ない中で、こころの健康講座は令和6年度2回実施/91人参加でA評価となっているが、こころの健康講座のアクションに関しては年2回で十分という評価でよいのか。

→カレンダーの影響で開催回数が減っていることもあるが、そのような状況も加味して経年的に見て順調に進んでいると判断し今回A評価にした。

・ほとんどがA評価ということで、非常に努力されているなど感じた。

・集団給食研究会のような研修会を利用してアクションプランを周知すればいいのではないか。

・はがきによる特定保健指導利用勧奨について、特定健診を受けた後に特定保健指導に該当された方全員に送っているのか、未受診だった方に送っているのか、対象者を知りたい。

→特定健診で特定保健指導の基準に該当となった人のうち、健診当日にその場で保健指導を受けた人を除き、特定保健指導の対象となった方にはがきによる利用勧奨を行っている。

・地域健康講座(特定健診)は令和5年度から6年度で75回から198回と3倍近く増加しているが、どのように開催されているのか、回数や人数は重複しているのかをもう少し教えてほしい。

- 複数項目で実施することもあるので、重複している部分もある。
- ⇒講座の開催案内を出したところに、参加していただいているのか。
 - 保健師がそれぞれの地域に合わせて開催している。
- ・学校におけるがん教育が令和5年から6年で件数が減少してB評価になっているが、学校側の取組が非常に重要になると思うので、学校におけるがん教育の充実を図っていただきたい。
 - 学校の各種状況等もあり、令和6年度件数が減少していることは事務局としても課題と認識している。
 - 今後、実施件数を増やせるように取り組んでいきたいと考えている。
- ・がん検診の精度向上のところでもいずれもB評価になっているが、特に大腸がん検診の受診率が低いのは精密検査の受診率が低いところに問題があると思うので、充実を図っていただくことが大事だと考えている。
 - ご指摘の通り、精密検査を受診していただくことが非常に重要だと考えている。大腸がん検診については、検診の受けやすさと比較して、精密検査に至った時の負担感等が忌避される傾向はあると考えているが、引き続き精密検査まで受けていただけるよう医療機関と連携し、勧奨を強化していきたいと考えている。
- ・たばこ対策禁煙支援のところでも、禁煙補助薬を配布する事業を行っていたと思うが、現在も行っているのか、禁煙につながった実績はどれぐらいか教えてほしい。
 - この事業は令和5年度から7年度の3カ年の限定された事業なので、今年度で終了ということになっている。実績は、令和5年度の参加者数が350名、令和6年度が1396名、令和7年度560名、計2306名のうち、現時点で823名、約35%が成功している。

(3) 地域・職域連携推進について

事務局より資料4, 5に沿って説明。

(主な意見・質疑等)

- ・限られた分野にはなるが、可能な範囲で連携をとって、ご協力できたらと考えている。
- ・NDBを用いた情報分析は大阪市の区別データも出される予定か。
 - 分析データについては、区別でも公表を予定している。
- ⇒大阪市と大阪公立大学の共創研究とも連携し、大阪市の区別の取組を支援していただけるようなデータをぜひ出していただきたい。
 - 区別のデータは重要だと認識している。ご助言も踏まえて大阪市と連携して取組を進めていきたいと考えている。